

松本深志高等学校創立140周年記念 志音会演奏会 出演者プロフィール



北原 幸男 (きたはら ゆきお) / 客演指揮

指揮を尾高忠明、秋山和慶、小澤征爾、C.ブジャース、W.ビーチニクの各氏に師事。桐朋学園大学卒業後、NHK交響楽団指揮研究員に就任。その後、タンゲルウッド音楽祭において小澤征爾、レナード・バーンスタインの指導を受ける。1985年、ブラハの春国際音楽コンクール第3位入賞。同年インスブルック・チロル歌劇場(オーストリア)専属指揮者に就任。国内では、1986年、札幌交響楽団定期演奏会に出演。以来、NHK交響楽団の定期演奏会をはじめ、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京都交響楽団等、全国各地のオーケストラに客演。1992年アーヘン市立歌劇場(ドイツ)及び同管弦楽団の常任指揮者に就任。同年、NHK交響楽団定期公演で指揮したショスタコービッチの交響曲第11番のCDをリリース。1993年アーヘン市立歌劇場音楽総監督就任。1996年に退任後もヨーロッパを中心に活動。同年、グローバル音楽奨励賞受賞。2003年武蔵野音楽大学講師に就任し、助教授を経て、2007年教授就任。2008年宮内庁式部職楽部指揮者に就任し、宮中晩餐会や皇室を迎える洋楽演奏会の演奏を行っている。現在までに、ハノーヴァー、キール、ダルムシュタット、ブラハのオペラハウス、リンツ・ブルックナー管弦楽団、北ドイツ放送交響楽団、ブラハ放送交響楽団、プタペスト交響楽団、プカレストフィルハーモニー、北イスラエル交響楽団などに客演経験がある。また、新国立劇場やびわ湖ホールでのオペラ公演にも客演している。2012年、日本合唱協会首席指揮者に就任。埼玉県富士見市文化芸術アドバイザー。



鈴木 愛美 (すずき まなみ) / ソプラノ (客演)

国立音楽大学卒業、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第7期生修了。第26回飯塚新人音楽コンクール大賞、文部科学大臣賞、朝日新聞社賞他受賞。2008年文化庁新進芸術家海外研修員としてミラノに留学。ベルヴェデーレ国際声楽コンクールのミラノ代表として、ウィーン本選会に出演。2010年よりローム・ミュージックファンデーション奨励学生としてウィーンに留学。オペラでは、新国立劇場「サロメ」奴隷、「魔弾の射手」花嫁付き添いの乙女、「リゴレット」小姓、びわ湖ホール「リゴレット」小姓等で出演。海外でも、11年ウィーン・シェーンブルン宮殿劇場にて「フィガロの結婚」バルバリーナ、12年ウィーン楽友協会のGläsernerSaalにてコンサートに出演。コンサートでも、ヘンデル「メサイア」、フォーレ「レクイエム」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」等に出演。二期会会員。



与儀 巧 (よぎ たくみ) / テノール (客演)

国立音楽大学卒業、同大学院修了。ポーロニャにて研鑽を積む。第6回東京音楽コンクール第1位及び聴衆賞受賞。2010年東京二期会「オテロ」(白井晃演出)ロドリゴ、2012年二期会創立60周年記念「パリアッチ」ペッペ、神奈川国際芸術フェスティバル「マダムバタフライX」(宮本亜門演出)ピンカートン、2013年びわ湖ホール・神奈川県民ホール「椿姫」ガストン子爵、2014年びわ湖ホール「死の都」アルベルト伯爵等出演。同年東京二期会とアン・デア・ウィーン劇場との共同制作「イドメネオ」タイトルロールでは、伸びやかで清新な演唱で公演の成功に寄与し、2015年11月東京二期会「ウィーン気質」ツェラウ伯爵でも絶賛を博した。コンサートでも、バッハ「カンタータ」、モーツァルト「レクイエム」、ベルリオーズ「テ・デウム」、ベートーヴェン「第九」等で活躍。「NHKニューイヤーオペラコンサート」にも2014年から3年連続出演し、今最も注目を集めるテノールである。二期会会員。



太田 直樹 (おた なおき) / バリトン (31回卒)

東京芸術大学卒業、同大学院修了。シュトゥットガルト音楽大学修了。オペラ研修所第8期修了。伊藤亘行、ギュンター・ライヒ、コンラート・リヒターの各氏に師事するほか、エルンスト・ヘフリガー氏のマスタークラスに参加。新国立劇場、二期会、東京室内歌劇場、サントリーホールオペラアカデミーなどのオペラ公演、読売日本交響楽団、東京交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢定期演奏会、草津夏期国際音楽祭などに出演するほか、日本各地で「冬の旅」「詩人の恋」などのドイツ歌曲を中心としたリサイタル、バッハ、モーツァルトなどの宗教曲のソロを多くつとめる。近年はスクロヴァチェフスキ指揮ザールブリュッケン放送管弦楽団「第九」、ロジェストヴェンスキ指揮読売日本交響楽団「イオランタ」、韓国高陽市星沙劇場「曾根崎心中」、ソウル室内オペラフェスティバル「リウトゥンの夢」などに出演。まつもと市民オペラではその立ち上げからプロデュースに関わり、第10回佐川吉男音楽賞を受賞した「魔笛」をはじめ「こうもり」「椿姫」「カルメン」「フィガロの結婚」の全公演に出演。国立音楽大学、桐朋学園芸術短期大学、都立総合芸術高校非常勤講師。二期会会員。東京室内歌劇場会員。



たぐち たみ / アルト (39回卒)

東京芸術大学音楽学部声楽科に学ぶ。長野冬季五輪公式文化芸術プログラム・オペラ「信濃の国善光寺物語」・「御柱」に、キャスト出演。松本深志高等学校創立120・130周年記念の志音会演奏会にて、「第九」・「戴冠ミサ」のアルトソロとして、昨年の第13回演奏会では「こうもり」のオルロフスキー役にて出演。松川村「すずの音ホール」の柿落としに、青島広志氏、太田直樹氏と共に、また「第2回まつもと市民オペラ・椿姫」にフローラ役にて出演。近年は長野市ホクト文化会館大ホールでの柳澤寿男指揮の東日本大震災・長野県北部地震追悼チャリティコンサート「モーツァルトのレクイエム」にアルトソロとして、作曲家飯沼信義氏、番場俊之氏の歌曲初演等に出演。各地(松川村、伊那、足立区、横浜)にて「たみ音楽教室」を主宰。子ども達と「たぐちたみとたんぼぼ隊」を結成。松川村「すずの音子ども合唱団」講師、東京未来大学の「こどもみらい園」の音楽講師、東京室内歌劇場会員。

志音会

1952年、「深志と音楽を志す者のグループを目標」との意をこめ「志音会」と命名、設立された。会員は、プロの音楽家を含む松本深志高校音楽部の卒業生及び音楽部在籍者約900名で構成され、さらに吹奏楽部のOB、志を同じくする卒業生及び一般の音楽愛好家も参加している。会員相互の親睦を深めるとともに、数々の演奏会を開催。「音楽を志す」ため、定期的な演奏会開催を目指し、志を同じくする者を含めた「合唱団」と「オーケストラ」を擁する。1996年の母校創立120周年記念演奏会は、指揮者・ソリスト全員、合唱・オーケストラメンバーの多くを会員で構成し、ベートーヴェン作曲交響曲第9番他を演奏し、それが現在の活動の基となった。2006年には母校創立130周年演奏会を開催し、2013年に志音会創立60周年記念演奏会、2015年に第13回演奏会を開催した。オーケストラとしては、2005年に第1回志音会オーケストラ演奏会を開催。これまでに、深志高校陸上部OB会「天馬会」記念式典・15会卒業年次回「あきつ会」記念式典・同窓会主催の深志教育会館での「桜の宴」等で演奏し、いずれも好評を博す。2018年3月、第6回志音会オーケストラ演奏会、2019年3月、第15回志音会演奏会を開催予定。